

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300183号
法人名	株式会社華響
事業所名	グループホーム華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456-7番地 (電話) 0994-42-7223
自己評価作成日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的な病院受診・家族会等を通して、利用者と家族つながりをしっかりサポートしていきたい

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは鹿屋市郊外のバラ園に近く、周りは畑地と静かな住宅地の中に在り、同系列のデイサービスや完成間近い有料老人ホームを目の前に控えた立地条件に恵まれた場所に佇んでいる。玄関を入ると2匹の犬が迎えてくれ、利用者や家族を和ますアニマルセラピーとしての効果もあり、室内も清潔で手入れも行き届いている。玄関には、家族、来訪者、市町村関係者に、見易い資料が違和感なく置かれ、壁にも掲示されている。管理者は看護師という経歴を持ち、昔から地域の方と密着したボランティアの実績があり、地域住民の信望もあつく、心身の健康を重んじたケアに取り組んでいる。職員も明るく元気がありホームの理念に沿った利用者対応ができています。地域の子どもの受け入れも頻繁で、利用者は交流を楽しみにしており、今後は利用者と子どもの「キッズヘルパー」的展開も考えています。地域と課題を共有し、利用者が一住民として活かされるよう努めている。地域のニーズに応じた地域密着型のサービス提供を目指している事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	5つの理念を掲げ地域との交流の重要性を中心に、生きがいのある毎日を送れるように支援している。	管理者と職員は利用者が地域社会の一員として生活が送れるように理念を掲げ、理念を覚えることはもとよりいかに実践し支援につなげるかを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事にも参加し交流している。また、地域の人々にもホーム内の行事に参加していただいている。	自治会に加入しており、地域のボランティア会も作っている。母体とも言える地元の寺で行っていた活動との連携もあり小、中、高校生や地域の方の吹奏楽や踊り、また地域高齢者も参加したコーラスなどの、ボランティア訪問も多い。特に小学生のボランティアは前日に利用者の希望を聞き、日常的に受け入れ、交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	介護教室や家族会などの際に、地域の方々にも参加していただき学びの機会にさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各開催日までの介護度の変化状況等について報告し、意見をいただいた内容等についても玄関に開示し広く意見を聞く機会を設けている。	2ヵ月に1回の運営推進会議は市の担当者や民生委員、家族の代表などの参加を得て開催し、事業所活動状況や改善の取り組みを報告している。家族の意見や要望は、市にも相談しながらその都度対応している。会議内容は、問題点や改善案が詳細に報告され、サービス向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ではホーム内の状況を確認していただき、その他メールや電話等でも密に連絡がとれる状況にある。	事業所の考え方や実情を市担当者によく知ってもらい、協力体制をとっている。市から来る連絡事項は職員全員が確認できるファイルを作成し、また季節的感染症については、その都度勉強会を開き、情報の共有に積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為については、一人一人の職員に対してプリントが渡されている。評価についても毎月チェックされており、18時30分以降は職員が一人になることや、外部からの侵入等に対して施錠されている。	管理者、全ての職員が拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在は園外を徘徊するような利用者は無いが、夜間廊下に出たがる利用者の部屋の、引き戸には本人が好む鈴の飾りをさり気なく取付け、鈴の音で動きを察知し職員全員で見守れるように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等に掲載されている介護に関する記事等を回覧し、現状について正しく理解し、スタッフ間で意見交換を行う機会を得ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性について関係者と話し合い必要とする利用者があれば活用できるように支援していきたい。		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に具体的な説明を行い納得していただいた上で文書の交付を行い入居していただいている。また、入居後も利用者の状況を伝え不安や疑問点について尋ねやすい雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、病院受診や面会の機会に家族等に、利用者の状況を伝え、意見や希望を聞かせていただきケアにいかしている。また、第三者委員と家族等の交流の場を設けており表せる機会となっている。	面会時や病院診察の際、家族の要望や利用者の意見に傾聴している。自治会からも参加をもらい家族会を開催し、交流を図り、出された意見などに対応し、日帰り旅行や一泊旅行を実施し、外出と買物の楽しみの機会を設けたりしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング時、改善点については意見交換を行っており積極的な意見が聞かれている。	職員は利用者一人ひとりの状況を把握し、申し送りの時に意見や提案を管理者に伝え、話し合いながら運営に活かしている。また管理者は県の基礎訓練や介護知識の資格取得にも積極的である。職員もスキルアップに繋がる研修に参加する意欲が高く、サービスの質向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を生かし、各業務の担当を決めそれぞれの相談役としても活動出来ている。。		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得に向け各研修への参加や通信教育受講の支援を行っている。また、勤務してから数年が経過している職員に対しては、基礎研修の再受講など振り返りの機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>セミナー開催に向けて交流する機会を設け、相互サービスの質の向上にむけて取り組みを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の生活歴、背景を把握し今までの生活のペースを大切にしながら徐々になじめるよう配慮し信頼関係を気付いて行けるよう支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただき、生活の流れ等について説明、得られた情報に基づいてサービス計画を作成、意見交換の出来る機会を設けるなど、関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要としている支援について優先すべき支援を極め、スタッフ間で統一した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、お互い助け合って生活するという関係作りに努め、生活面でのアドバイスをもらったりしながら支えあう関係を築いている。		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況改善について家族の協力が重要である事を伝え、協力を得ながらともに本人を支える関係を築いていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状況改善について家族の協力が重要である事を伝え、協力を得ながらともに本人を支える関係を築いていけるよう支援している。	利用者の多くは住み慣れた地域住民で、ボランティアで来てくださる方も知人であると言う恵まれた環境である。積極的に職員が同行し、自宅に季節の衣装替えに帰ったり、郵便物を取りに行き、近所の方との会話を楽しめる機会や場面を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に自宅や以前の職場へ出かけ、なじみの人とお茶を飲む機会を設けるなど、関係が途切れないよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話等での相談ごとに応じる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の過去、現在の生活スタイルをよく把握し、状況が変わるごとにアセスメントや情報等の見直しを行い本人、御家族へどのような暮らしを望まれているのか、ご意向を確認しケアプランの中に取り入れている。	日常生活の中で、一人ひとりの日々の言葉や表情で思いを汲み取り、どこで何をしたいか、本人本位の意向の把握に努めている。特に入浴の時に日頃言えない本人の思いが聞かれることもあり、利用者の気持ちを汲んでケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、御家族に生活歴を尋ね、入居されてからも日常会話の中や家族との会話の中で情報を得ている。その他、居宅介護支援事業所のケアマネジャー等からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、水分摂取量、食事摂取量、排泄状況等、一覧表でスタッフがその日の個人の状況を知ることができるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常や面会の中で、本人や家族の想いをくみ取れるように、談笑を大事にしている。スタッフにも毎日のミーティングの中で快適に過ごしていただく為の情報交換や話しあいを行っている。	個人別の支援日誌の中に、利用者や家族の気づきやアイデアも活かされ、その人らしく暮らすための必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画が作られている。入浴時に気付いた身体の変化も全職員で共有し、毎日のミーティングで確認し、状況に応じた介護計画の見直しもされている。利用者が確認でき安心できるように、服薬後の空袋をしばらく処分しないなどの工夫も見られる。	

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者の様子を支援日誌に記録し、更に介護経過としてまとめモニタリングに生かせるようにしている。毎日のミーティングでも情報交換や話しあいを行い、状況の変化等が早めに気付けるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院や病状の変化時などは本人、御家族、スタッフの意見を聞きながらケアプランの立て直しを行っている。また、ケアプランの期間に応じてケアプランの立て直しをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や、地域の小学校・中学校との交流を積極的に行い地元の子どもたちの来園も多い。慰問活動の受け入れも多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ、入居前に受診されていたかかりつけ医の受診を継続していけるよう支援している。	なじみの医師による継続的な診療が受けられるよう本人や家族の希望を大切に、受診支援をしている。早朝予約は職員がし、後に家族が同行する場合もある。ヒヤリハットの活用も、今後は小さな事がたくさん出ることを念頭に置き、工夫を考えている。玄関横の棚には事業所の提携病院が掲げてあり、家族の安心が得られ、適切な医療がうけられるように支援している。	

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内にも7人の看護師が在籍しており、情報交換を行いながら、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、サマリー等で情報提供を行い、入院生活がスムーズにおくれるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重要説明書で説明を行っているが、入居者の変化や思いに応じて、家族・本人を交えて、定期的な話し合いを行っている。地域の方々の協力体制も良く、ボランティアで除草作業等の申し入れをいただき、環境整備についても支援していただいている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、家族や本人に重要説明書での説明をしているが、状況変化に応じた話し合いを定期的に行うことで事業所として出来ることを考え、そして医療機関との連携を図りながら、家族と利用者が納得のいく終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる上級救命講習などを受講しており、応急手当や初期対応などについても法人内の看護師が24時間電話対応で指示できる体制にある。		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>これまでの生活状況を知り、その人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、配慮している。</p>	<p>火災や地震、水害などの災害対策に夜間を想定した非難訓練を行い、消防団や地域の協力ももらいながら、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけるよう努めている。災害時の夜間連絡網も決められ、災害時の備蓄もある。また台風時の防風シャッターは楽に上げ下げできるものである。火災通報装置やスプリンクラーも設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活状況を知り、その人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、配慮している。	一人ひとりの誇りと人格を尊重し、新人職員の接遇研修も行っている。また利用者間の雰囲気を感じとり、座る椅子の配置をさりげなく替えたり、誇りやプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋の片付けや、掃除など一緒に行いながら、必要な物を選んだり、買い物等の計画を立てたり、自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の意志確認を行い体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間・食事等、個々に合わせた時間で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できるだけ、入居前に利用していた美容室・理容室を利用して頂けるよう支援し、入浴の準備など好みの洋服を自分で選んでいただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、利用者のADLに応じた役割分担を行いながら、食事が楽しみなものであるよう支援している。	食事前の誤嚥防止の口腔体操を取入れ、音楽を楽しみながらの食事をしている。食器の片付けや洗い場の手伝いなど役割分担し、利用者の力を活かす工夫をしている。また、保存食作りやホーム行事での調理手伝いは自宅での生活の延長線でもあり、そして買物ついでに外食も取入れるなど、楽しめるよう支援している。	

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については個々に記録し、職員全員が把握できるようにしており、利用者の状況や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助を行い、ポリデントによる義歯の消毒も定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起立時の尿漏れ等も多く、9人中7人が尿取りやリハビリパンツを使用している。時間的に声かけ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	個人支援ファイルの中に水分量や時間的排泄のチェック表も詳細に記されている。夜間は熟睡してもらうために昼寝は30分にとどめ、朝の目覚め時に動きやすさを考慮してリハビリパンツに替えてトイレ誘導を行うことで失禁も少なくなり、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士・調理師の指導を受けながら、食事やお茶菓子等繊維の多い物を中心に手作りするなど、工夫している。		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	介助を要する人、そうでない人など、個々に合った入浴スタイルを取っている。	ひとり入浴を好まれる方、背中を流すだけの介助、足浴をする方と利用者の希望に合わせ個々に応じた入浴スタイルの支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴・食事・排泄等声かけを必要とされる時間もあるが、基本的には自室に帰られる時間も自由に選んで過ごしておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各入居者のカルテにファイルしてあり、常時確認できるようになっている。また、薬の変更等があった場合は、申し送り簿で情報を得られるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食事の後片付けや洗濯物干しなど、それぞれの役割をもって生活されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の食材の買い物や、日用品の買い物などに出かけられ、出先では、お茶等を楽しまれたりしている。病院受診の日は、家族と一緒に美容室や墓参りなどに出掛けられている。	その日の一人ひとりの希望にそって散歩や買い物に出かけたり、家族同行で美容室や墓参り、喫茶を楽しんでいる利用者もいる。ホームの周辺は見晴らしの良い住宅地と畑地であり地域の方の声かけや、ゲートボールの見学を楽しんだり、日常的な外出支援を行っている。	

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>部屋で管理されている方もありますが、殆どはホーム側で預かり、生活に必要な物など、新聞の広告を見ながら買い物リストを作られ、職員と一緒に買い物に出かけておられる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族の方から贈り物が届く事も多く、その都度お礼の電話をかけられたりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、季節を感じられるような掲示物もあり、入居者がそれぞれに居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	<p>共用空間は天井も高く明るい。厨房から各部屋が見渡され、食堂と休憩室のワンフロアは広く作られている。玄関には家族への通達事項や医療機関の案内など整理されて掲載し、廊下の壁面には一年がかりで利用者が作った作品が飾られている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを見る空間、ラジオを聞く空間など、それぞれ気の合う入居者同士ですごされている。</p>		

鹿児島県 グループホーム華蓮

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものの持ち込み、身体状況や認知症の周辺症状等に合わせて配慮した家具・手すりの設置など、入居者が心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室は明るく、窓からは近隣の住宅が見え、我が家に居るような作りである。本人の希望で使い慣れた家具が配置され、ベッドの高さも利用者の身体状況に合わせて調節され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>椅子等はキャスター付きの物、そうでない物など入居者のADLに応じて使い分けている。居室を間違えたりされる利用者に関しては、部屋の入り口に花やネームプレートなどを貼り、安心してホール移動ができるよう配慮している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム華蓮

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム華蓮

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない